

令和 2 年度 中小企業支援調査

(製造業における外国人材受入れ支援事業)

事業報告書

令和 4 年 3 月



三菱UFJリサーチ&コンサルティング

— 目次 —

第Ⅰ章 はじめに	2
1. 事業背景・目的	2
2. 事業内容	2
【事業2】製造分野特定技能1号評価試験の実施を通じた 技能水準の調査.....	4
第Ⅱ章 学科試験問題、実技試験問題及びサンプル問題一式の 作成・翻訳	5
1. 製造分野特定技能1号評価試験作問委員会の設置趣旨、開催過程.....	5
2. 作問委員会における主な論点と検討結果.....	6
3. 小括と得られた示唆.....	7
第Ⅲ章 試験実施及び現地語による問い合わせへの対応	8
1. 製造分野特定技能1号評価試験（溶接を除く18業務区分）の実施.....	8
2. 製造分野特定技能1号評価試験（溶接を除く18業務区分）の実施結果.....	10
3. 製造分野特定技能1号評価試験（溶接）の実施.....	14
4. 特定技能評価試験実施に係る問い合わせ対応.....	16
5. 実施結果概要	17
6. 小括と得られた示唆.....	20
第Ⅳ章 適切な受験料の算出	21
1. 適切な受験料の算出に係る方針について	21
2. 他分野における特定技能1号評価試験費用の受験料について	22
3. 外国籍の受験者向け日本語試験の検定料について	22
4. 小括と得られた示唆.....	23
第Ⅴ章 製造業における外国人材の技能水準の把握	24
1. 概要	24
2. 試験区分ごとの合格率の分析.....	24
3. アンケートによる合格者層の特徴分析.....	30
4. 小括と得られた示唆.....	39

第Ⅰ章 はじめに

1. 事業背景・目的

深刻化する人手不足に対応するため、平成31年4月1日に改正入管法が施行され、新たな在留資格、「特定技能」による外国人材の受入れが開始された。経済産業省の所管では、製造3分野（素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業）において、特定技能外国人材の受入れが行われている。

本事業では、「特定技能」のうち、「特定技能1号」で在留する外国人（以下、「1号特定技能外国人材」という）の受入れを円滑に行うため、特に中小企業や小規模事業者に対する必要な支援、本制度の活用を進めるにあたって必要な国内外の実態等の調査を行った。

また、平成31年3月に設置された「製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会」の取り組みの一環として、地方への人材定着を図る観点から、地方における人材のマッチング支援の検討を行った。

更に、新たに受け入れる特定技能外国人材の技能水準は学科試験及び実技試験からなる「製造分野特定技能1号評価試験」に合格した者とされていることから、経済産業省から選定された技能試験実施機関として、問題の作成や試験の実施等を通じ、次年度以降の運用に必要な情報の収集・分析、製造業における外国人材の技能水準の把握を行った。

2. 事業内容

上記の事業目的を達成するために、本事業では、大きく以下の内容について取り組んだ。

(1)【事業1】中小企業向け外国人材の受入れ支援に関する調査

① ポータルサイト構築

② 中小企業からの相談に応じるための相談窓口の設置

- ・ 中小企業向け製造業特定技能外国人材相談窓口、外国人従業員向け製造業特定技能外国人材相談窓口の設置
- ・ 相談業務の効率化に係るワンストップシステムの構築

③ 中小企業等向けセミナーの開催

- ・ 上期開催セミナー（10回）
- ・ 下期開催セミナー（10回）
- ・ 海外向け動画の制作

④ 「製造業特定技能外国人材受入れ協議・連絡会」の運営

- ・ 受入れ協議・連絡会の運営
- ・ 受入れ協議・連絡会入会手続（システム構築含む）

- ⑤ 受入れ機関等へのヒアリング調査
- ⑥ 試験合格者のマッチングの在り方検討
- ⑦ 受入れ協議・連絡会構成員向けアンケート調査
- ⑧ 送出し候補国調査

(2) 【事業2】 製造分野特定技能1号評価試験の実施を通じた技能水準の調査

- ① 学科試験問題、実技試験問題及びサンプル問題一式の作成・翻訳
- ② 試験実施及び現地語による問い合わせへの対応
- ③ 適切な受験料の算出
- ④ 製造業における外国人材の技能水準の把握

(3) 事業報告書等の作成

以下に続く各章では、上記のうち、新型コロナウイルス感染症の影響のため一部事業の実施を翌年度に繰り越した、(2) 【事業2】 製造分野特定技能1号評価試験の実施を通じた技能水準の調査部分について、実施結果をとりまとめている。

**【事業 2】 製造分野特定技能 1 号評価試験の実施を通じた
技能水準の調査**

第Ⅱ章 学科試験問題、実技試験問題及びサンプル問題一式の 作成・翻訳

1. 製造分野特定技能 1 号評価試験作問委員会の設置趣旨、開催過程

(1) 設置趣旨

製造分野特定技能 1 号評価試験実施要領（令和 2 年 4 月改訂）に則り、製造分野特定技能 1 号評価試験の試験問題の作成にあたり、「必要な学識経験、実務経験等を有する者複数名を試験委員として指定し、試験区分毎に有識者委員会を設置」した。

(2) 開催過程

製造分野特定技能 1 号評価試験作問委員会の開催過程については、下記の通り、試験区分ごとの作問進捗状況に応じて開催を行った。

図表 II-1 製造分野特定技能 1 号評価試験作問委員会の開催過程
(2020 年 7 月～2021 年 3 月)

連番	職種	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回	第 5 回
1	鋳造	7月30日	12月18日	1月14日		
2	鍛造	7月30日	12月15日	1月19日	2月10日	2月17日
3	ダイカスト	8月25日	10月19日	12月8日		
4	機械加工	9月23日	1月8日	1月26日	2月2日	
5	金属プレス加工	8月27日	1月15日	2月4日		
6	鉄工	8月31日	9月30日	10月28日	11月20日	
7	工場板金	8月4日	11月24日	12月17日		
8	めっき	8月24日	10月27日	12月21日		
9	アルミニウム陽極酸化処理	8月4日	10月6日	11月16日		
10	仕上げ	8月27日	1月28日	2月8日		
11	機械検査	8月31日	10月29日	11月12日	12月3日	
12	機械保全	8月3日	12月16日	1月20日	2月18日	
13	電子機器組立て	8月7日	12月23日	1月29日		
14	電気機器組立て	9月17日	12月14日	1月18日	2月9日	2月24日
15	プリント配線板製造	8月3日	9月2日	11月10日	12月7日	
16	プラスチック成形	8月31日	11月4日	11月18日		
17	塗装	8月3日	10月7日	11月27日		
18	溶接	11月6日	未	未		
19	工業包装	8月4日	12月23日	1月27日		

(3) 委員構成

本作問委員会では、試験区分毎に 4~5 名程度の有識者を試験委員として指定した。

2. 作問委員会における主な論点と検討結果

(1) 昨年度作問過程における日本語レベルについての検証

昨年度問題作成方針においては、事務局にて日本語レベルについては、特定技能外国人材の人材基準である日本語能力として、日本語能力試験（JLPT）で N4 相当という基準に相当する日本語表記を、事務局で判断するという体制をとっていることが判明した。また、各試験区分の作問委員会のうち、「ふりがな対応だけで本当に十分なのか、疑問は残る。全文ひらがな表記のほうがより適切に受験者に理解されるのではないか。」という意見のほか、「試験前の諸注意事項については通訳を認める対応をしており、日本語理解は高くないという前提に立っている。」という報告を受けた。

(2) 昨年度作問過程における翻訳過程についての検証

昨年度の作問過程における翻訳過程については、共通点としては事務局の原案に対し、委員長または特定委員が校正する形態であった。また、翻訳用語については、現場で用いられる用語がオフィシャルな英語訳として定着しているものと異なるケースもあるため、委員会判断が必要という点は、作問委員会全体の共通認識であった。

また、「たとえば正しいものには○、誤ったものには×という発想自体が日本式であり、その発想のままでは翻訳プロセスは完了とはいえない。」といった意見のほか、「専門用語の訳出参照として JIS を用意するが、英語に存在しない用語もある。」という意見を得た。

(3) 今年度作問方針の検討

①、②における聞き取り事項を踏まえ、今年度の作問方針については、原則作問担当については昨年度の担当を踏襲する形で進行了。しかし、昨年度に作成実績のあった一部問題については、見直し時間が不足していた問題の出題文案、選択肢表現等についての再検討を行ったほか、翻訳過程の課題を改善するため、日本語から他言語に翻訳された際に生じる問題点（英語起源カタカナ語の語義を問う国内向け出題など）についての変更、英訳の事務局案についてのチェックを委員会としておこなう方針を決定した。

(4) 国内試験実施を受けた難易度検証に基づく、問題案の変更

2020 年 10 月～2021 年 3 月において製造分野特定技能 1 号評価試験を実施したことを受け、問題案に対しての難易度を再検証し、日本語の文言・専門用語や、問題内容の入れ替えを行った。

(5) 作成問題内容の検証

技能検定の実施要領に基づく、作成問題内容の検証を行った。具体的には、作成した問題について委員が解きなおしを行い、問題の正誤確認のほか、問題内容の文言チェックを行った。

(6) 昨年度作問過程に係るその他の論点・課題

昨年度の作問過程においては、計算問題を出題する場合において、電卓を使用することなく正答を導き出せる問題作成への工夫をするべきという意見や、正答率の高さについての推測として、実際の作業場面で日々聞く現象・問題が正答率が高いことに言及する意見も見られた。

(7) サンプル問題の作成

第1回委員会において承認を得た通り、前年度作成問題から事務局が提案するサンプル問題「案」を委員長、または委員会において選出。溶接を除く18試験区分でボリュームを学科、実技とも1～2題と揃え、経済産業省ホームページにて掲出した。

3. 小括と得られた示唆

(1) 特定技能1号評価試験作問委員会に係る課題

日本語レベル、並びに翻訳過程について、現地語訳をする際には、より海外現地での実態に即した解答方法の徹底や、用語については受験にあたって補足的な参考情報が必要であると考えられる。

問題作成分担について、一定の分類項目に基づく「見える化」をする仕組みが、今後の問題案増加に向けては必要と考えられる。また、委員へのそうした一覧表、作業状況の随時共有のほか、検討結果、試験に使用された試験結果の共有を徹底することで、継続的、かつ持続的な問題作成体制の構築が可能となると考えられる。

難易度基準について、委員会開催を重ねるごとに、技能検定3級程度という基準についての認識にズレが生じる可能性があり、委員会開催時には技能評価試験の趣旨について、周知を徹底する必要がある。さらに、問題候補の選定基準としては、難易度のほか、製造分野での実際の作業場면을想定できるデータをもとに、問題作成・候補選定をする必要がある。

作成問題パターンについて、各委員の個別の確認も含めて内容の検証をすることで、解答者にとってより解答しやすい問題の確定が必要となる。

(2) 学科試験問題、実技試験問題及びサンプル問題一式に係る課題

サンプル問題について、受験予定者より学習指針が存在しないなか、唯一の合格への手がかりであることなどを事由に、量的追加を求める声が問い合わせ窓口等を通じ、多く上がった。将来的には質量ともに本試験と同等の1セットを公開する形態が望ましいと考えられる。

学習用参考資料のニーズについても検討課題であるが、試験対策に適応した人材を助長するリスクを踏まえながらの開発が必須と考えられる。

第Ⅲ章 試験実施及び現地語による問い合わせへの対応

1. 製造分野特定技能1号評価試験（溶接を除く18業務区分）の実施

(1) 試験実施概要

① 試験言語

日本語、および現地語にて実施。

② 試験実施主体

株式会社サーティファイ

③ 実施方法

学科試験・実技試験双方において、ペーパーテスト方式で実施をした。

④ 試験実施日・会場

各会場における試験実施日と場所については、以下の通りである。

図表 III-1 製造分野特定技能1号評価試験試験実施日・会場（令和2年度・国内）

実施日	開催地	会場
	都市	
2020年10月25日	東京	立教大学池袋キャンパス
	名古屋	名古屋国際会議場
	大阪	ホテルグランヴィア大阪
2021年3月10日	東京	TKP 市ヶ谷カンファレンスセンター
2021年3月11日	名古屋	TKP ガーデンシティ PREMIUM 名古屋ルーセントタワー
2021年3月12日	大阪	TKP ガーデンシティ 東梅田

図表 III-2 製造分野特定技能1号評価試験試験実施日・会場（令和2年度・海外）

実施日	開催地		会場
	国	都市	
2021年10月26日	インドネシア	ジャカルタ	ダルマプルサダ大学
2021年10月27日			
2021年10月28日			
2021年11月7日	タイ	バンコク	泰日工業大学
2021年11月21日	フィリピン	マニラ	オカダマニラ
2022年2月26日	ネパール	ラリトプル	日本語教育文化センター(JLECC)
2022年2月27日			

⑤ 試験実施体制

当該試験実施業務は、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社から委託を受けた、株式会社サーティファイが事業を実施した。

⑥ 試験申し込み方法

本事業にて設置をした、製造3分野特定技能外国人材制度のポータルサイトの申し込みページにて、申し込み受付を行った。

⑦ 試験内容と水準

製造分野特定技能1号評価試験実施要領（令和2年4月改訂）に則り、「特定技能1号の試験免除となる技能実習2号修了者が受験する技能検定3級試験程度」を難易度の水準として設定した。

⑧ 合否の基準

製造分野特定技能1号評価試験実施要領（令和2年4月改訂）に則り、100点を満点とし、学科試験については65点以上、実技試験については60点以上を合格基準として設定した。

2. 製造分野特定技能1号評価試験（溶接を除く18業務区分）の実施結果

国内試験の溶接を除く18区分においては、受験者数238名のうち、合格者は27名（11.3%）となっている。

図表 III-3 製造分野特定技能1号評価試験結果（国内・溶接を除く18区分）

実施日	開催地	合格	不合格	総計	合格率
2020年10月25日	東京	1	6	7	14.3%
	名古屋	4	38	42	9.5%
	大阪	3	21	24	12.5%
2021年3月10日 ～ 2021年3月12日	東京	8	38	46	17.4%
	名古屋	4	70	74	5.4%
	大阪	7	38	45	15.6%
総計		27	211	238	11.3%

海外においては、インドネシアが受験者数230名のうち合格者46名（20.0%）、タイが受験者数71名のうち合格者15名（21.1%）、フィリピンが43名のうち合格者4名（9.3%）、ネパールが受験者数113名のうち合格者6名（5.3%）となっている。

図表 III-4 製造分野特定技能1号評価試験結果（海外）

実施日	開催地（国）	合格者数	不合格者数	総計	合格率
2021年11月7日	タイ	15	56	71	21.1%
2021年10月26日～28日	インドネシア	46	184	230	20.0%
2021年11月21日	フィリピン	4	39	43	9.3%
2022年2月26日、27日	ネパール	6	107	113	5.3%
総計		65	279	344	18.9%

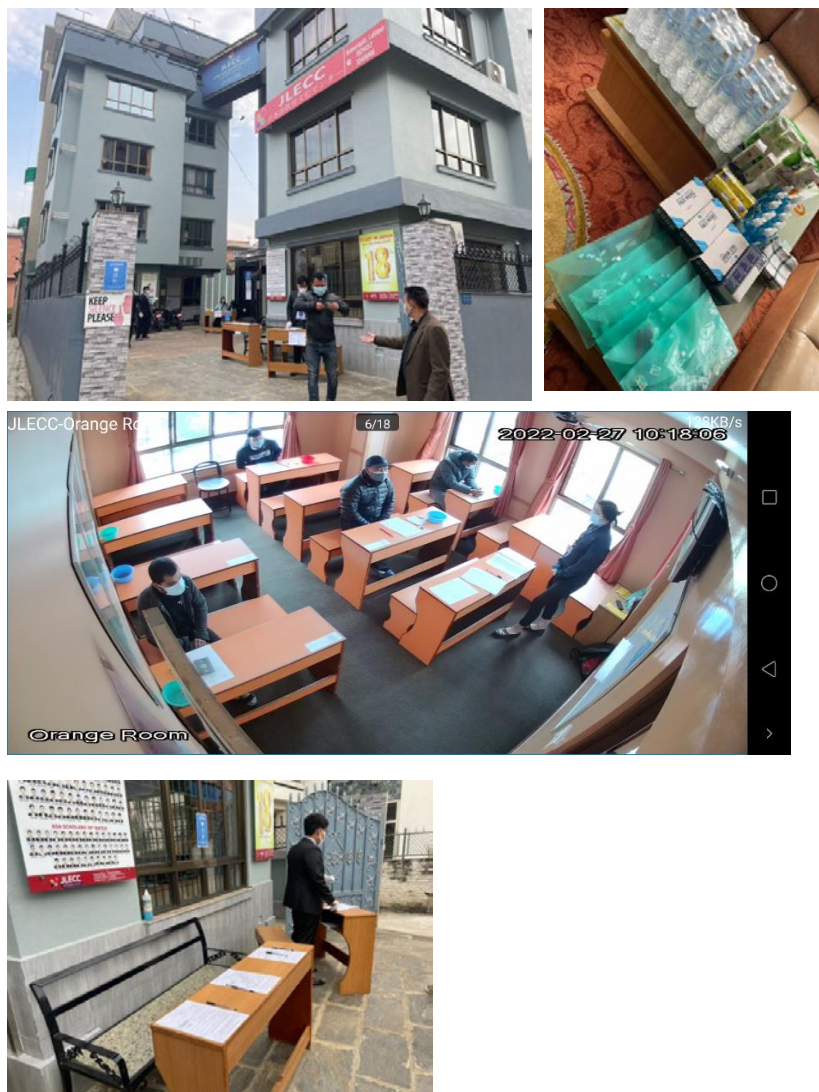
図表 III-5 インドネシア・試験会場の様子



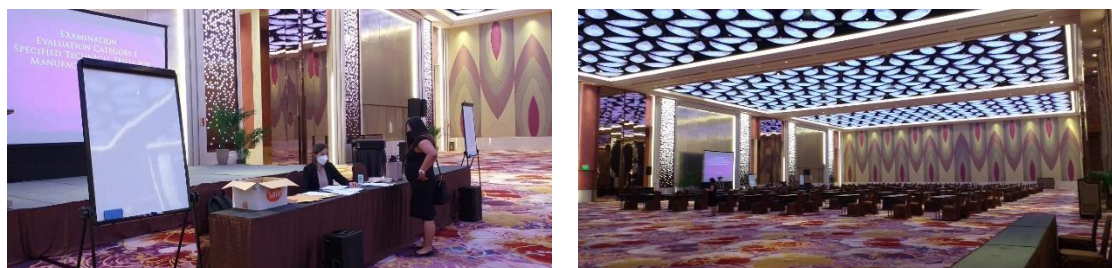
図表 III-6 タイ・試験会場の様子



図表 III-7 ネパール試験会場の様子（2022 年 2 月実施）



図表 III-8 フィリピン・試験会場の様子



3. 製造分野特定技能1号評価試験（溶接）の実施

(1) 試験実施概要

① 試験言語

日本語にて実施

② 試験実施主体

株式会社サーティファイ

③ 実施方法

学科試験については、ペーパーテスト方式、実技試験については製作等作業試験方式で実施をした。

④ 試験実施日・会場

各会場における試験実施日と場所については、以下の通りである。

図表 III-9 第1回製造分野特定技能1号評価試験（溶接）実施日・会場

実施日	開催地	会場
2020年11月17日	名古屋	中部地区溶接技術検定委員会
2020年12月7日	川崎	東部地区溶接技術検定委員会
2021年1月15日	福岡	中国地区溶接技術検定委員会
2021年1月21日	広島	九州地区溶接技術検定委員会

⑤ 試験実施体制

当該試験実施業務は、三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社から委託を受けた、株式会社サーティファイが事業を実施した。また、株式会社サーティファイは溶接実技試験実施等、一部業務を一般社団法人日本溶接協会に再委託した。

⑥ 試験申し込み方法

本事業にて設置をした、製造3分野特定技能外国人材制度のポータルサイトの申し込みページにて、申し込み受付を行った。

⑦ 試験内容と水準

製造分野特定技能1号評価試験実施要領（令和2年4月改訂）に則り、「特定技能1号の試験免除となる技能実習2号修了者が受験する技能検定3級試験程度」を難易度の水準として設定した。

⑧ 合否の基準

製造分野特定技能1号評価試験実施要領（令和2年4月改訂）に則り、学科試験は100点満点中65点以上とした。実技試験については、手溶接作業はJIS Z 3801、半自動溶接作業はJIS Z 3841に基づき、外観試験及び曲げ試験の評価基準に基づいて実施をした。

なお、手溶接作業、半自動溶接作業での評価基準は以下の通りである。

図表 III-10 製造分野特定技能1号評価試験（溶接）実技試験評価基準

	手溶接作業	半自動溶接作業
評価基準	JIS Z 3801	JIS Z 3841
評価項目	(1) 3.0mmを超える割れがある場合 (2) 3.0mm以下の割れの合計長さが、7.0mmを超える場合 (3) ブローホール及び割れの合計数が、10個を超える場合 (4) アンダカット、溶込み不良、スラグ巻込みなどが著しい場合	

(2) 試験実施結果

国内試験の溶接区分においては、受験者数38名のうち、合格者は10名（26.3%）となっている。

図表 III-11 製造分野特定技能1号評価試験結果（国内・溶接）

実施日	開催地	合格	不合格	受験者数総計	合格率
2020年11月17日	名古屋	3	11	14	21.4%
2020年12月7日	川崎	2	6	8	25.0%
2021年1月15日	福岡	3	2	5	60.0%
2021年1月21日	広島	2	9	11	18.2%
総計		10	28	38	26.3%

4. 特定技能評価試験実施に係る問い合わせ対応

(1) 製造分野特定技能 1 号評価試験に関する問い合わせ窓口

① 概要

経済産業省の所管である、素形材産業分野、産業機械製造業分野、電気・電子情報関連産業分野の製造 3 分野において、1 号特定技能外国人材の受入れを検討している事業者にとっての円滑な受入れ、並びに「製造分野特定技能 1 号評価試験」の受験を検討している、もしくは合格をした外国人材にとって、適切な情報を提供するため、相談窓口を設置した。

② 対象者

製造 3 分野（素形材産業、産業機械製造業、電気・電子情報関連産業）において「製造分野特定技能 1 号評価試験」の受験を検討している、または合格証明書発行を希望する中小企業、外国人材本人等。

③ 相談内容

円滑に「製造分野特定技能 1 号評価試験」を受験、合格証明書を受領するためのお問合せ。

④ 相談窓口体制

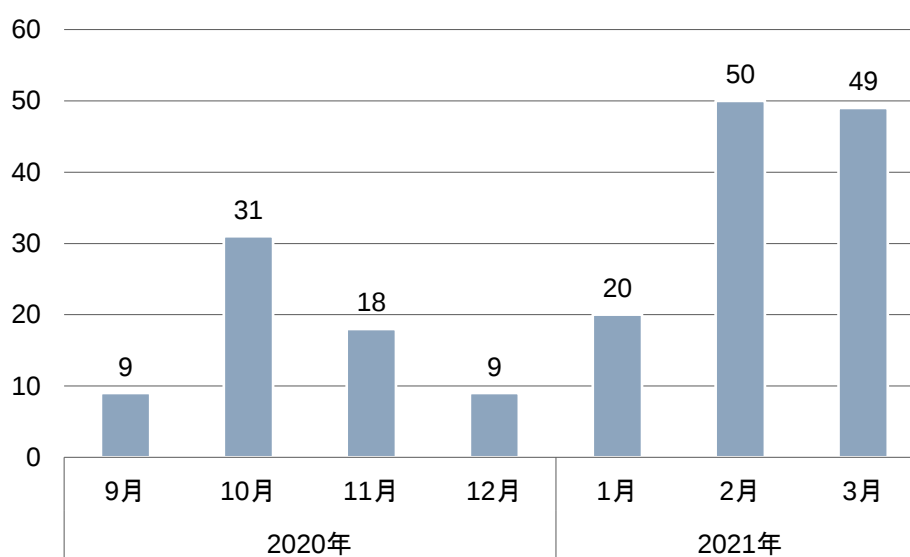
原則としてホームページの公開フォームからの問い合わせにのみ対応。5 営業日以内の一次回答を行った。なお、当該相談窓口業務は、三菱 UFJ リサーチ&コンサルティング株式会社から、委託を受けた、株式会社サーティファイが事業を実施した。

5. 実施結果概要

(1) 製造分野特定技能1号評価試験に関する問い合わせ窓口における対応結果（国内）

窓口を開設した2020年9月～2021年3月において、全体での件数は186件となっている。また、2020年10月、2021年2月・3月といった、試験の申込、実施の前に問い合わせ件数が伸びる傾向となっている。

図表 III-12 問い合わせ窓口対応結果（国内）

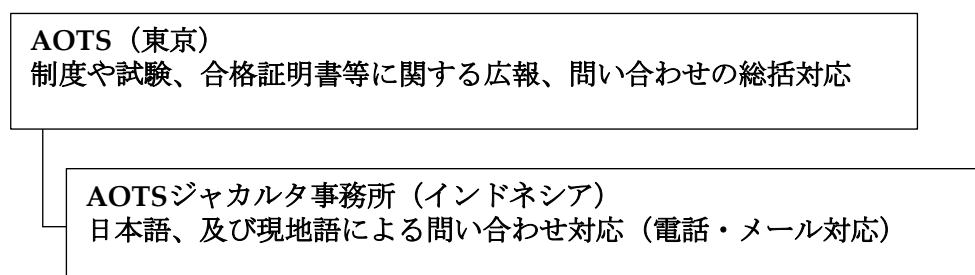


(2) 製造分野特定技能1号評価試験に関する問い合わせ窓口における対応結果（海外）

① インドネシア

一般財団法人海外産業人材育成協会（AOTS）ジャカルタ事務所において、常勤スタッフが、メール、電話等で、平日9時から17時の間で、製造分野特定技能1号評価試験全般に関する問い合わせ対応を行った。

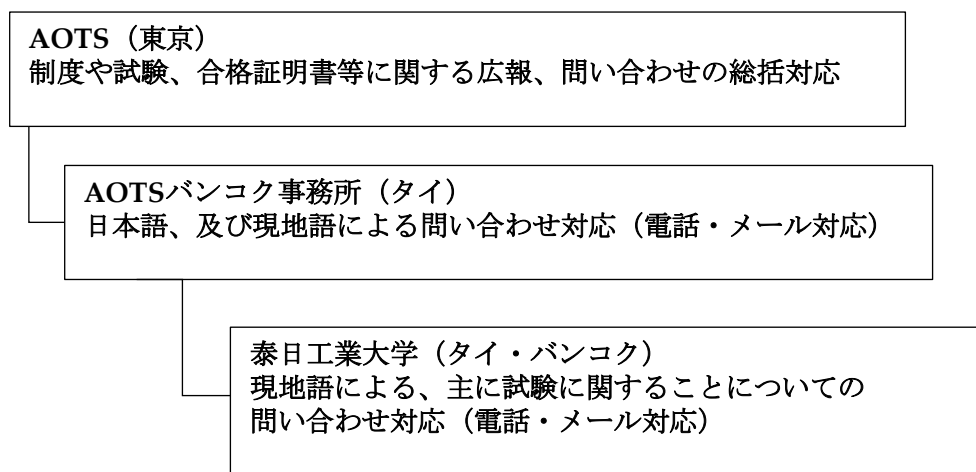
図表 III-13 インドネシア・相談窓口体制図



② タイ

受験料の受付については、泰日工業大学が直接行ったことから試験に関する問い合わせは、泰日工業大学で対応した。一方、制度や、日本での就労など、全般的な質問は AOTS バンコク事務所で対応した。

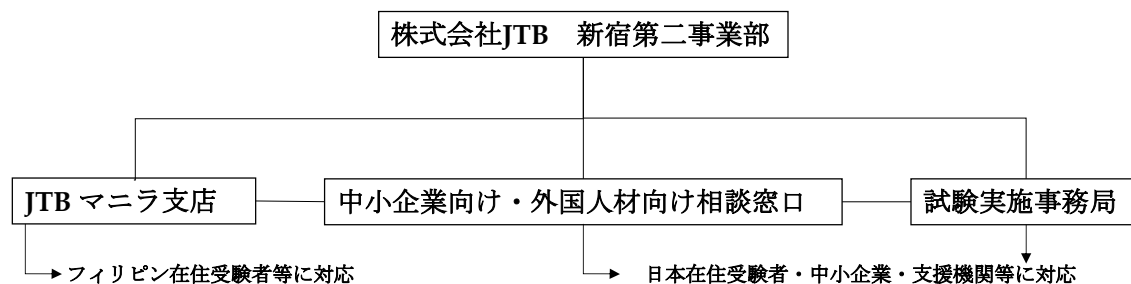
図表 III-14 タイ・相談窓口体制図



③ フィリピン

フィリピン在住外国人材からの相談窓口は JTB マニラ支店内にて対応を行い、立ち上げに際しては、対応スタッフに対し、オンラインにて制度説明や想定質問の共有など、事前指導を行った。また、問合せ内容及び回答は、新宿第二事業内相談窓口に報告をし、JTB マニラ支店内相談窓口で対応出来ない事項に関しては、対応内容の指導を行った。

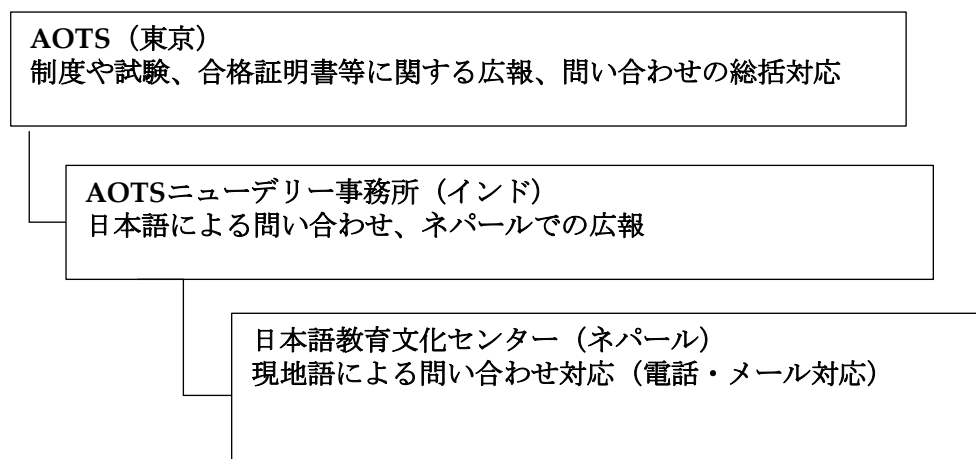
図表 III-15 フィリピン・相談窓口体制図



④ ネパール

一般財団法人 海外産業人材育成協会（AOTS）が協定を締結しているネパールの日本語学校日本語教育文化センターにおいて、常勤スタッフが、メール、電話等で、平日 9 時から 17 時の間で、製造分野特定技能 1 号評価試験全般に関する問い合わせ対応を行った。問い合わせ内容によっては AOTS 本部、及びニューデリー事務所が適宜フォローした。

図表 III-16 ネパール・相談窓口体制図



6. 小括と得られた示唆

溶接を除く 18 業務区分においては、2020 年 10 月 25 日に実施した試験では全体で 73 名受験者がおり、合格者は 8 名であった。業務区分別の受験者数や合格者数にも偏りがあり、今後は国内での受験者の拡大に向けた広報の充実や、合格率を上げるための参考情報の充実が求められる。

溶接区分における今後の課題については、曲げ試験の実施の判定においては、耐久性を検証するという関係上、他の区分と比べて時間を要する。そのため、年度内の試験実施回数を増やしていくためには、一回の判定にかかる時間を低減していくといったオペレーションの改善を図る必要がある。

試験当日の冒頭、試験に関する説明部分が、試験監督官によってばらつきがあった。今後、受験者の日本語到達度をあらかじめ想定し、試験の説明速度の統一、および受験者にとって分かりやすい説明方法・内容を充実させる必要がある。

また、次年度以降に見込まれる受験者増加に対しては、現行の運営人数を増やしていくなどを通じて、実施体制を一層充実させる必要がある。

第Ⅳ章 適切な受験料の算出

1. 適切な受験料額の決定

令和２年度の国内試験においては、受験者より徴収する適切な受験料を 2,000 円に設定した。また、海外試験においては、現地通貨で日本円 2,000 円相当の金額を算出し、各国現地通貨額による徴収を行った。

図表 Ⅳ-1 令和２年度国内試験・海外試験における受験料について

国名	受験料
日本	2,000 円
インドネシア	270,000 インドネシア・ルピア
タイ	600 タイ・バーツ
フィリピン	890 フィリピン・ペソ
ネパール	2,200 ネパール・ルピー

2. 他分野における特定技能1号評価試験費用の受験料について

他の特定産業分野の試験では、最低価格は日本円にして1,000円、最高価格としては27,300円であった。

図表 IV-2 他分野における特定技能1号評価試験費用¹⁾

業種	所管省庁	国内試験	海外試験
介護	厚生労働省	介護技能評価試験・介護日本語評価試験 各1000円	カンボジア2試験×各9USD、フィリピン各500PHP、インドネシア各132,000IDR 他
ビルクリーニング	厚生労働省	2200円	ミャンマー30,000チャット
建設	国土交通省	2000円	
造船・船用工業	国土交通省	溶接23,800円・最低料金99,000円 溶接学科のみは6,100円最低料金30,500円 塗装16,800円・最低料金84,000円 鉄工18,900円・最低料金94,500円 仕上げ18,900円・最低料金94,500円 機械加工23,100円・最低料金115,500円 電気機器組立て27,300円・最低料金136,500円	
自動車整備業	国土交通省	4000円程度	フィリピン2000ペソ
航空業	国土交通省	2,000円 (国からの一部助成があり、上記は半額の 値段となっている)	50,000トゥグルグ(MNT) 又は 2,000円(JPY) 又は 19米ドル(USD)
宿泊	国土交通省	7000円 ※2020年度は日本政府が特定技能試験の 受験料を半額負担することが決定。 よって2020年7月に行う宿泊業技能測定試 験の受験料も7,000円の半額は日本政府が 負担するため、受験者は残りの半額「3,500 円」の受験料支払いとなった。	ミャンマー30,000チャット
農業	農林水産省	8000円	
漁業	農林水産省	3600円程	①インドネシア460,000ルピー ②フィリピン1700ペソ
飲食品製造業	農林水産省	8000円	フィリピン1,700PHP、インドネシア450,000 IDR
外食業	農林水産省	7000円	カンボジア33USD、ミャンマー33USD、フィリ ピン170PHP、

3. 外国籍の受験者向け日本語試験の検定料について

日本語検定試験事業分野を仮定の競合検定試験と措置し、スペックを公開資料より抽出した。販売価格においては、半ば公的な位置づけとして浸透している国際交流基金主催のJLPT等を踏まえつつ、送出し国において後発の試験とされる技能評価試験については、さらに製造3分野以外の受験料平均額を参照する価格とすることによって、「特定技能試験の受験料」特性を固めていくことが必要と考えられる。

¹⁾ 造船・船用工業については、すべて税抜き価格での表示であり、一回の受験にあたっての最低料金が設定されている。最低料金とは、1回の試験料の合計が最低料金に満たない場合は、受験料の合計金額ではなく、最低料金を申し受ける制度である。

図表 IV-3 外国籍の受験者向け日本語試験の検定料について（暫定版）

No.	試験名	主催団体	受験人数・主な実施国	受験料（税込）
1	BJTビジネス日本語能力テスト	(財)日本漢字能力検定協会 (2009年より) ※2008年まではJETROが実施	年間約4,000人 2014年度の受験者は5,210名（国内2,519名、国外2,691名） 国内／7都市 （東京・横浜・名古屋・京都・大阪・福岡・大分） 海外／中国、タイ、台湾、ベトナム、マレーシア、インドネシア、韓国、ミャンマー	■日本 7,000円 ■海外 中国：630元 韓国：60,000ウォン
2	日本語能力試験（JLPT） ※改定後の内容（2010年改定）	同上	年間60万人（2014年度約59万人） （世界64カ国・地域）	5,500円
3	J. TEST 実用日本語検定	主催団体 日本語検定協会・J.TEST事務局 運営会社 株式会社語文研究社	・年間約7万人。内訳については非公開。 試験実施国：日本、中国（香港・台湾以外）、台湾、タイ、モンゴル、ベトナム、ミャンマー・ネパール	3,600円 （団体受験：3,000円）
8	日本語学カテスト （台湾名称：日本語学力測検） ※日本語NAT-TEST（日語NAT考試）日本語学カテストの形式を踏襲して海外で実施されている試験（中国名が「日語NAT考試」）。	■日本語学カテスト 主催： 専門教育出版『日本語学カテスト』運営委員会 （AIKグループ） ■日本語NAT-TEST 主催： 国内…専門教育出版 海外…日語NAT考試運営委員会（天津）	■日本語学カテスト（国内、国外計）： ・第1回～26回計53,301人 ・内訳 第22回：3,851人 第23回：2,983人 第24回：4,544人 第25回：3,193人 第26回：3,434人 ・第43回：1,250人（国内、海外計） 実施国：日本、台湾ほか ■日本語NAT-TEST 年間4,100人程度 ・2007年第1回～2011年第5回計20,515人（8ヶ国、24会場） ・2008年第4回：1,943人（3ヶ国、11会場） 実施国：中国（北京含む15都市）、ベトナム、ネパール、インドネシア、ミャンマー、フィリピン、スリランカ、バングラデシュ、カンボジア、モンゴル	■国内： 1～5名 12,500円 6名～2,500円（1人あたり） ■海外： 中国：340元 ベトナム：640,000 VND ネパール：3,000 NPR インドネシア、カンボジア：30USD スリランカ：4,000 LKR ミャンマー：20USD モンゴル：38,000 MNT バングラデシュ：2,500 BDT スリランカ、ミャンマー：20USD

4. 小括と得られた示唆

他分野における特定技能1号評価試験の費用は、最低価格は日本円にして1,000円、最高価格としては27,300円であり、外国籍の受験者向け日本語試験の検定料の費用としては、日本国内においては5,000円～7,000円がボリュームゾーンとなっている。しかし、諸外国においては現地経済状況に応じて異なるのが現状であり、今後は海外現地の事情や、本事業の自走化を踏まえて、試験の試行回数を増やし、損益分岐点を超えるためのシミュレーションをもとに適正な価格が設定されることが考えられる。

第Ⅴ章 製造業における外国人材の技能水準の把握

1. 概要

(1) 主な分析内容について

① 試験区分ごとの合格率の分析

学科試験・実技試験の評価方法が異なる溶接を除く 18 区分、および現地語環境と日本語（ルビ）環境の海外試験と国内試験の比較から導出される、合格者の外国人材の技能水準の傾向を分析した。

② アンケートの合格者層の特徴分析

試験合格者層の属性的特徴について、アンケートの傾向から分析を行った。

2. 試験区分ごとの合格率の分析

(1) 国内（溶接を除く 18 区分）

令和 2 年度国内試験受験者数 238 名において、総合合格率は 11.3%となっている。
特に、プリント配線板製造（50.0%）、工業包装（28.6%）、電気機器組立て（25.0%）の合格率が比較的高い。

図表 V-1 令和 2 年度国内試験（溶接を除く 18 区分）結果（学科試験・実技試験別）

試験区分	受験者数	合格者数			合格率		
		学科試験	実技試験	総合	学科試験	実技試験	総合
鋳造	5	1	0	0	20.0%	0.0%	0.0%
鍛造	1	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
ダイカスト	4	1	0	0	25.0%	0.0%	0.0%
機械加工	17	7	2	2	41.2%	11.8%	11.8%
金属プレス加工	44	5	1	0	11.4%	2.3%	0.0%
鉄工	3	0	3	0	0.0%	100.0%	0.0%
工場板金	10	1	6	1	10.0%	60.0%	10.0%
めっき	3	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
アルミニウム陽極酸化処理	1	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
仕上げ	8	2	0	0	25.0%	0.0%	0.0%
機械検査	7	0	2	0	0.0%	28.6%	0.0%
機械保全	14	3	0	0	21.4%	0.0%	0.0%
電子機器組立て	28	6	3	2	21.4%	10.7%	7.1%

試験区分	受験者数	合格者数			合格率		
		学科試験	実技試験	総合	学科試験	実技試験	総合
電気機器組立て	12	4	8	3	33.3%	66.7%	25.0%
プリント配線板製造	18	9	15	9	50.0%	83.3%	50.0%
プラスチック成形	28	5	6	4	17.9%	21.4%	14.3%
塗装	21	4	4	2	19.0%	19.0%	9.5%
工業包装	14	5	7	4	35.7%	50.0%	28.6%
総計	238	53	57	27	22.3%	23.9%	11.3%

(2) 国内（溶接区分）

令和2年度国内試験受験者数38名において、総合合格率は26.3%（10名）となっている。

学科試験の合格率は47.4%、実技試験の合格率は、必修で92.1%、選択で42.1%となっている。

図表 V-2 令和2年度国内試験（溶接区分）結果（学科試験・実技試験別）

受験者数	合格者数				合格率			
	学科試験	実技試験		総合	学科試験	実技試験		総合
		必修	選択			必修	選択	
38	18	35	16	10	47.4%	92.1%	42.1%	26.3%

(3) インドネシア

インドネシアの受験者数 230 名において、総合合格率は 20.4%となっている。中でもプリント配線板製造が最も合格率が高く、100.0%となっている。次いで、鉄工（47.1%）、機械保全（35.7%）となっている。

図表 V-3 令和 2 年度インドネシア海外試験結果（学科試験・実技試験別）

試験区分	受験者数	合格者数			合格率		
		学科試験	実技試験	総合	学科試験	実技試験	総合
鋳造	16	13	2	2	81.3%	12.5%	12.5%
鍛造	7	5	0	0	71.4%	0.0%	0.0%
ダイカスト	13	9	4	1	69.2%	30.8%	7.7%
機械加工	16	10	6	5	62.5%	37.5%	31.3%
金属プレス加工	15	6	1	1	40.0%	6.7%	6.7%
鉄工	17	12	12	8	70.6%	70.6%	47.1%
工場板金	14	6	6	2	42.9%	42.9%	14.3%
めっき	7	4	2	1	57.1%	28.6%	14.3%
アルミニウム陽極酸化処理	7	0	2	0	0.0%	28.6%	0.0%
仕上げ	15	8	1	1	53.3%	6.7%	6.7%
機械検査	15	1	1	1	6.7%	6.7%	6.7%
機械保全	14	9	5	5	64.3%	35.7%	35.7%
電子機器組立て	14	2	3	1	14.3%	21.4%	7.1%
電気機器組立て	10	4	3	1	40.0%	30.0%	10.0%
プリント配線板製造	7	7	7	7	100.0%	100.0%	100.0%
プラスチック成形	13	5	8	3	38.5%	61.5%	23.1%
塗装	13	5	3	3	38.5%	23.1%	23.1%
工業包装	17	16	5	5	94.1%	29.4%	29.4%
総計	230	122	71	47	53.0%	30.9%	20.4%

(4) タイ

タイの受験者数 71 名において、総合合格率は 21.1%となっている。中でもプリント配線板製造の合格率が最も高く、100.0%となっている。次いで、電気機器組立て (50.0%)、プラスチック成形 (50.0%) となっている。

図表 V-4 令和 2 年度タイ海外試験結果（学科試験・実技試験別）

試験区分	受験者数	合格者数			合格率		
		学科試験	実技試験	総合	学科試験	実技試験	総合
鋳造	1	1	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
鍛造	4	3	0	0	75.0%	0.0%	0.0%
ダイカスト	3	3	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
機械加工	25	8	9	5	32.0%	36.0%	20.0%
金属プレス加工	2	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
鉄工	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
工場板金	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
めっき	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
アルミニウム陽極酸化処理	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
仕上げ	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
機械検査	4	2	0	0	50.0%	0.0%	0.0%
機械保全	11	2	5	2	18.2%	45.5%	18.2%
電子機器組立て	3	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
電気機器組立て	4	2	3	2	50.0%	75.0%	50.0%
プリント配線板製造	1	1	1	1	100.0%	100.0%	100.0%
プラスチック成形	8	4	7	4	50.0%	87.5%	50.0%
塗装	1	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
工業包装	4	4	1	1	100.0%	25.0%	25.0%
総計	71	30	26	15	42.3%	36.6%	21.1%

(5) フィリピン

フィリピンの受験者数 43 名において、総合合格率は 9.3%（4 名）となっている。中でもプリント配線板製造が最も高く、100.0%となっている。次いで、機械検査（50.0%）、電子機器組立て（14.3%）となっている。

図表 V-5 令和 2 年度フィリピン海外試験結果（学科試験・実技試験別）

試験区分	受験者数	合格者数			合格率		
		学科試験	実技試験	総合	学科試験	実技試験	総合
casting	1	1	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
鍛造	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
ダイカスト	1	1	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
機械加工	6	2	0	0	33.3%	0.0%	0.0%
金属プレス加工	3	2	1	0	66.7%	33.3%	0.0%
鉄工	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
工場板金	1	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
めっき	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
アルミニウム陽極酸化処理	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
仕上げ	1	1	0	0	100.0%	0.0%	0.0%
機械検査	2	2	1	1	100.0%	50.0%	50.0%
機械保全	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
電子機器組立て	7	2	2	1	28.6%	28.6%	14.3%
電気機器組立て	1	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
プリント配線板製造	1	1	1	1	100.0%	100.0%	100.0%
プラスチック成形	8	2	3	1	25.0%	37.5%	12.5%
塗装	6	1	0	0	16.7%	0.0%	0.0%
工業包装	5	4	0	0	80.0%	0.0%	0.0%
総計	43	19	8	4	44.2%	18.6%	9.3%

(6) ネパール

ネパールの受験者数 113 名について、総合合格率は 5.3% となっている。中でも鉄工と機械加工が最も総合合格率が高く、20.0% となっている。

図表 V-6 令和 2 年度ネパール海外試験結果（学科試験・実技試験別）

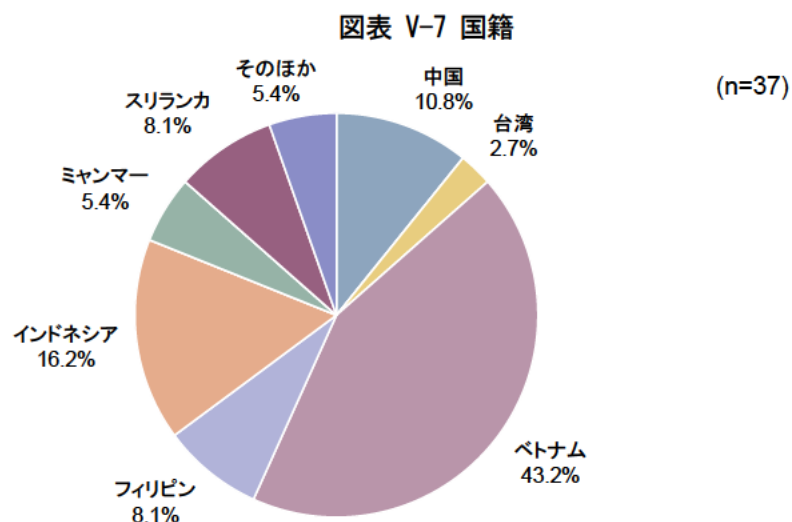
試験区分	受験者数	合格者数			合格率		
		学科試験	実技試験	総合	学科試験	実技試験	総合
鋳造	2	1	0	0	50.0%	0.0%	0.0%
鍛造	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
ダイカスト	0	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
機械加工	5	1	1	1	20.0%	20.0%	20.0%
金属プレス加工	4	1	0	0	25.0%	0.0%	0.0%
鉄工	5	1	2	1	20.0%	40.0%	20.0%
工場板金	4	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
めっき	1	0	1	0	0.0%	100.0%	0.0%
アルミニウム陽極酸化処理	1	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
仕上げ	6	1	0	0	16.7%	0.0%	0.0%
機械検査	3	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
機械保全	5	0	0	0	0.0%	0.0%	0.0%
電子機器組立て	12	5	1	1	41.7%	8.3%	8.3%
電気機器組立て	16	6	2	1	37.5%	12.5%	6.3%
プリント配線板製造	8	4	3	1	50.0%	37.5%	12.5%
プラスチック成形	14	5	1	1	35.7%	7.1%	7.1%
塗装	11	1	2	0	9.1%	18.2%	0.0%
工業包装	16	9	0	0	56.3%	0.0%	0.0%
総計	113	35	13	6	31.0%	11.5%	5.3%

3. アンケートによる合格者層の特徴分析

(1) 国内試験

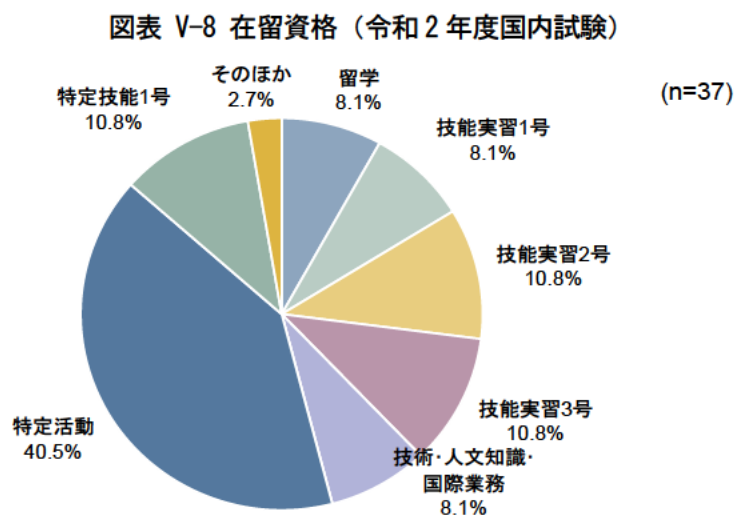
① 国籍

「ベトナム」の割合が最も高く 43.2%となっている。次いで、「インドネシア（16.2%）」、「中国（10.8%）」となっている。



② 在留資格

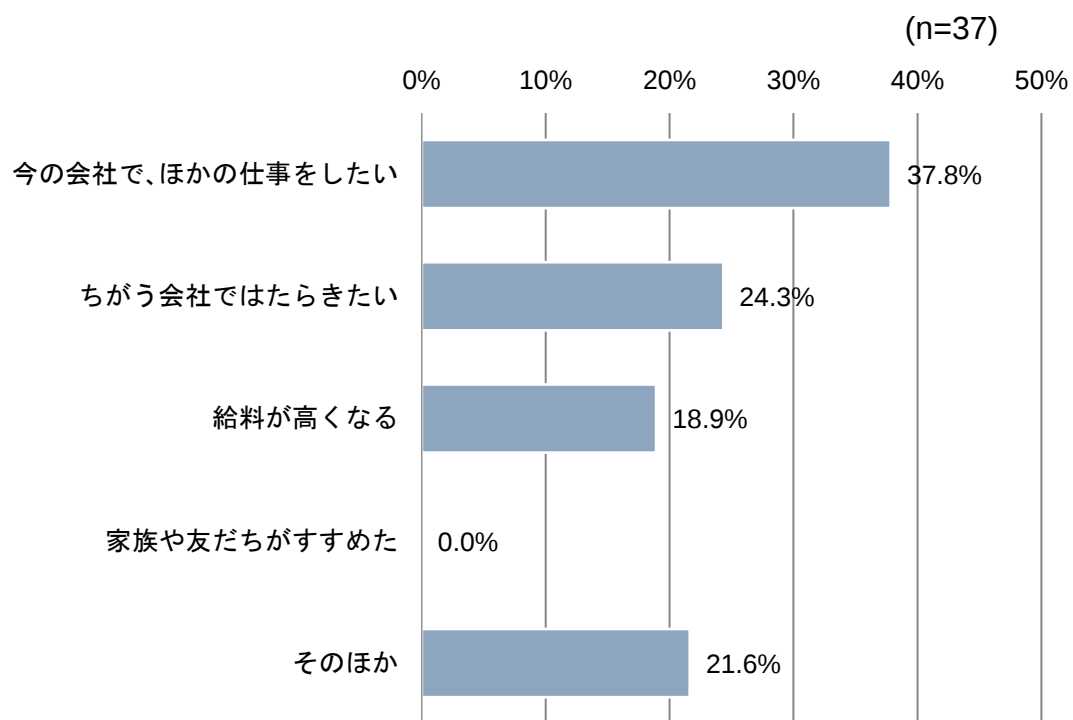
「特定活動」の割合が最も高く 40.5%となっている。次いで、「技能実習 2 号（10.8%）」、「技能実習 3 号（10.8%）」、「特定技能 1 号（10.8%）」、「留学（8.1%）」、「技能実習 1 号（8.1%）」、「技術・人文知識・国際業務（8.1%）」となっている。



③ 試験を受けた理由

「今の会社で、ほかの仕事をしたい」の割合が最も高く 37.8%となっている。次いで、「ちがう会社ではたらきたい (24.3%)」、「そのほか (21.6%)」となっている。

図表 V-9 試験を受けた理由

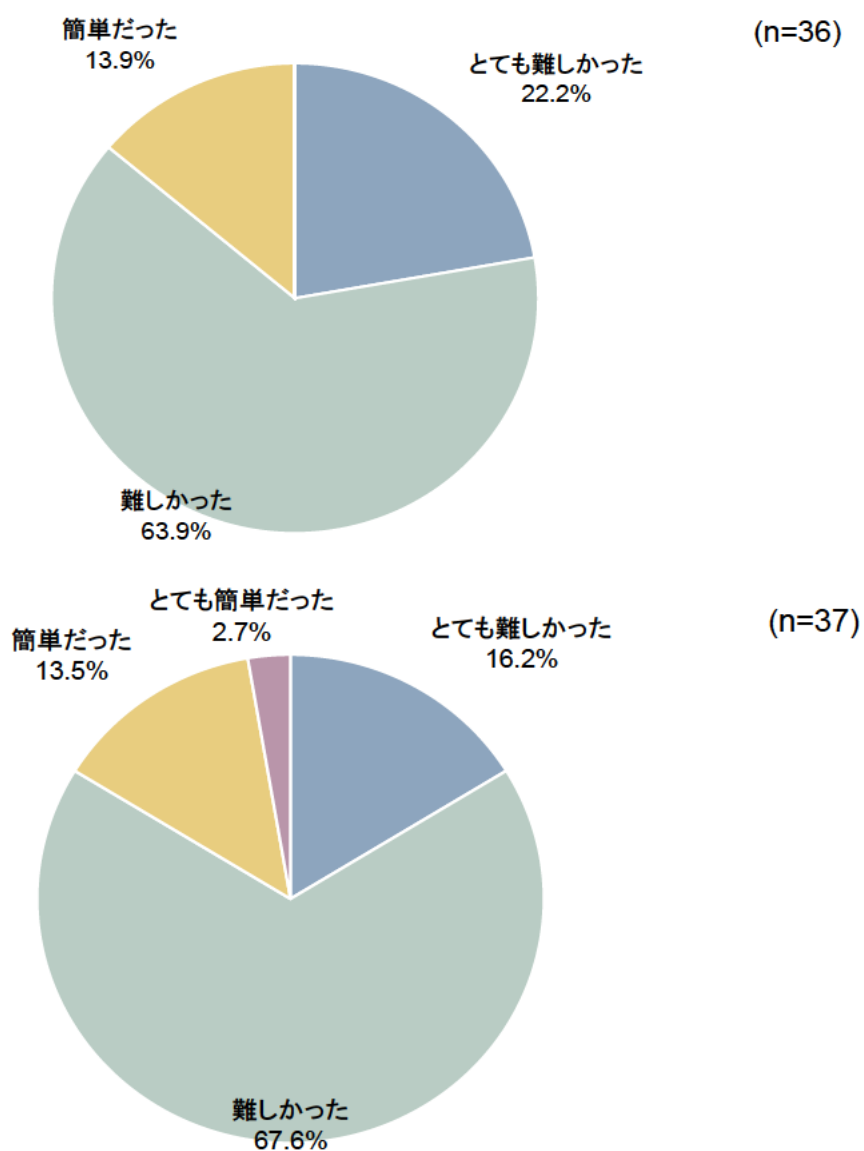


④ 試験の日本語・問題について

試験の日本語については、「難しかった」の割合が最も高く 67.6%となっている。次いで、「とても難しかった (16.2%)」、「簡単だった (13.5%)」となっている。

試験の問題については、「難しかった」の割合が最も高く 63.9%となっている。次いで、「とても難しかった (22.2%)」、「簡単だった (13.9%)」となっている。

図表 V-10 試験の日本語（上図）・問題（下図）について

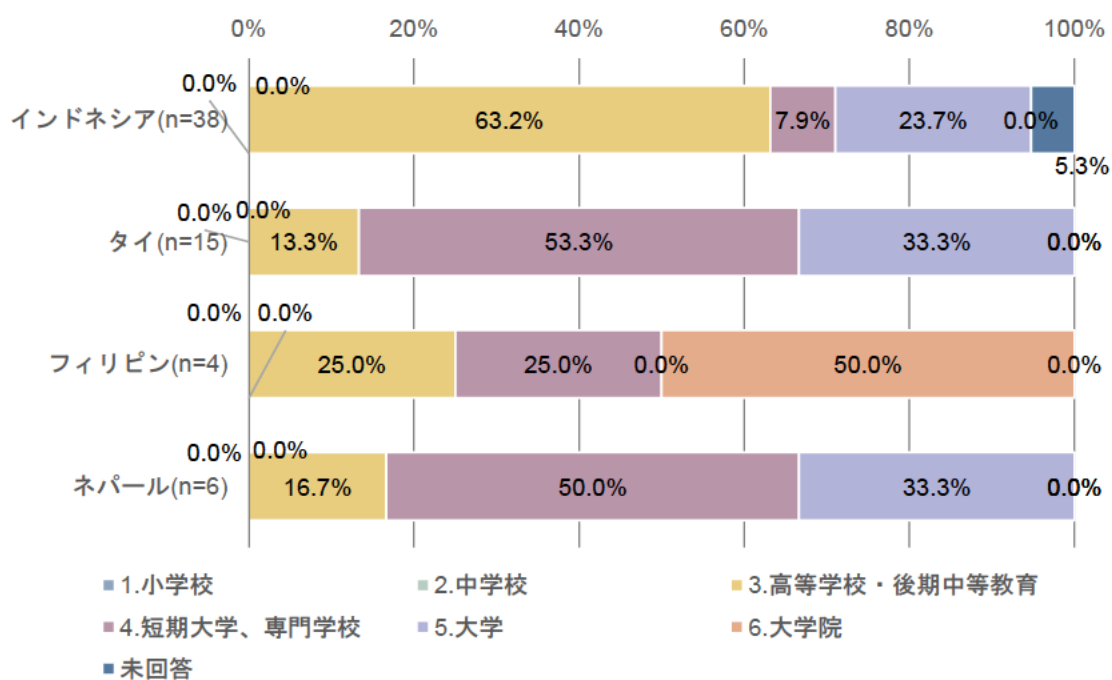


(2) 海外試験

① 最終学歴

インドネシアでは、「高等学校・後期中等教育」が最も多く、63.2%となっている。タイでは、「短期大学、専門学校」が最も多く、53.3%となっている。フィリピンでは、「大学院」が最も多く、50.0%となっている。ネパールでは、「短期大学、専門学校」が最も多く、50.0%となっている。

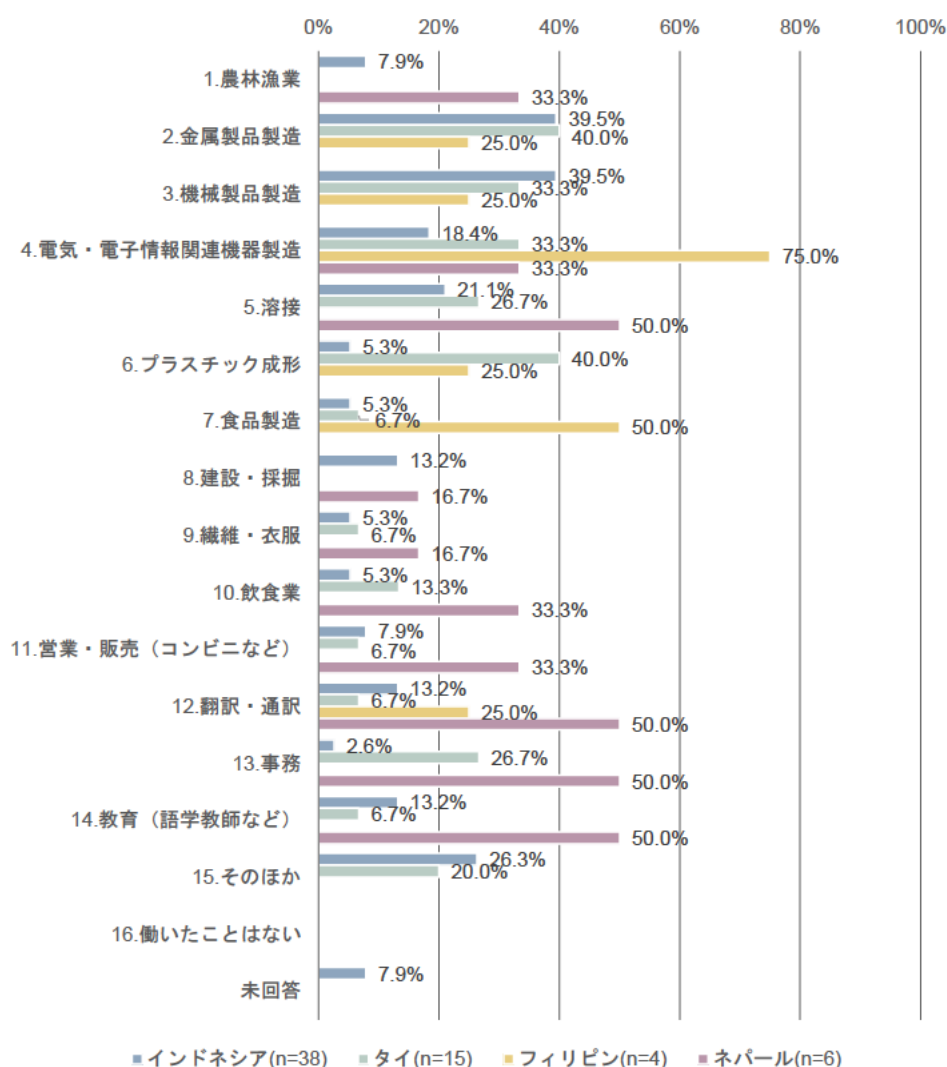
図表 V-11 最終学歴



② 経験したことのある業務

インドネシアでは、金属製品製造（39.5%）、機械製品製造（39.5%）、電気・電子情報関連機器製造（39.5%）の経験を持つ合格者が多い。タイでは、プラスチック成形（40.0%）、金属製品製造（40.0%）、機械製品製造（33.3%）、電気・電子情報関連機器製造（33.3%）の経験を持つ合格者が多い。フィリピンでは、2名のみ、通訳・翻訳、「そのほか」の経験を持つ合格者となっていることから、全般的に、製造業系のバックグラウンドを持つ合格者が少ない。ネパールについても同様に、溶接（50.0%）、電気・電子情報関連機器製造（33.3%）のほかは、通訳・翻訳、事務、教育（語学教師など）の経験を有する合格者が多く、製造業系のバックグラウンドを持つ合格者が比較的少ない。

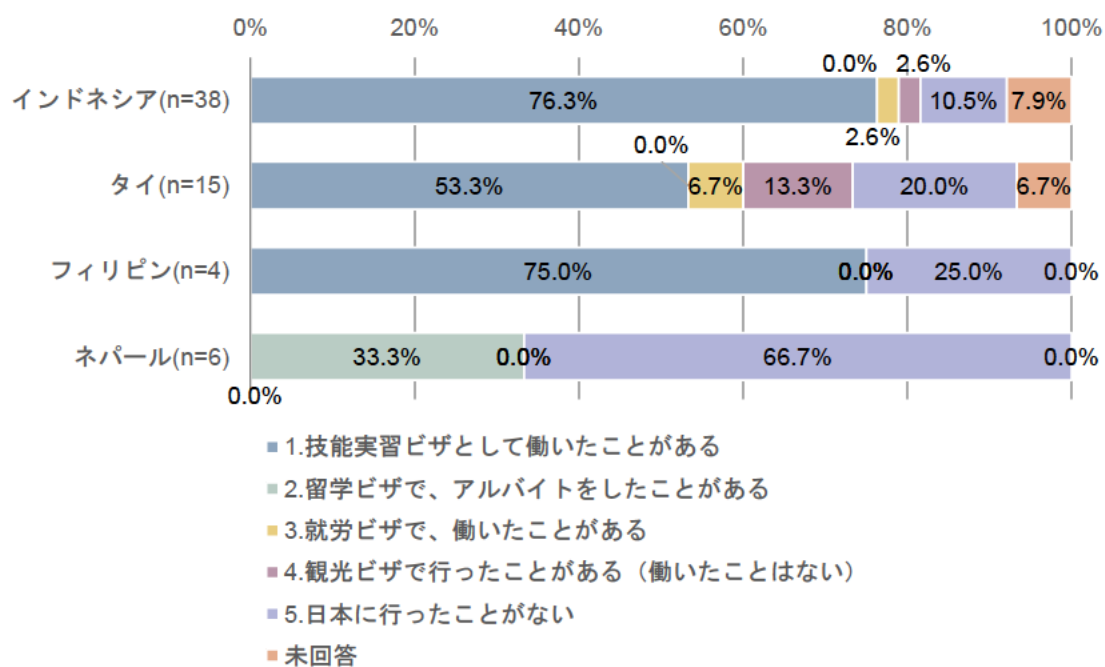
図表 V-12 経験したことのある業務



③ 日本での在職・在留経験

インドネシア、タイ、フィリピンでは、「技能実習ビザとして働いたことがある」合格者が最も多く、それぞれ76.3%、53.3%、75.0%となっている。ネパールでは、「日本に行ったことがない」合格者が最も多く、66.7%となっている。

図表 V-13 日本での在職・在留経験（令和2年度海外試験）

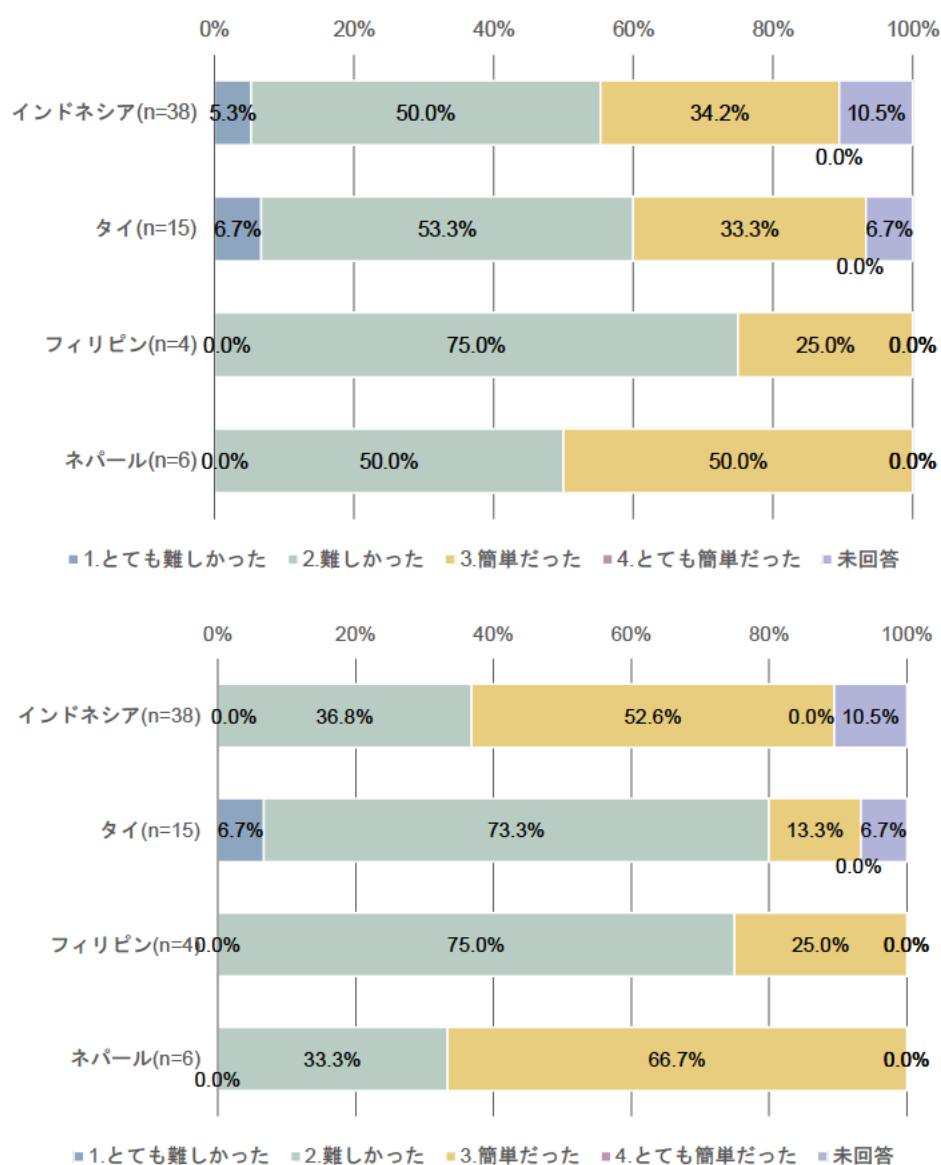


④ 試験の専門用語・文法について

試験の専門用語について、4 か国のうち 3 か国は「難しかった」と回答する合格者が多く、インドネシア、タイ、フィリピンそれぞれで 50.0%、53.3%、75.0%となっている。一方で、ネパールについては、「難しかった」、「簡単だった」の割合がそれぞれ 50.0%となっている。

試験の文法について、インドネシア、ネパールは「簡単だった」と回答する合格者が最も多く、それぞれ 52.6%、66.7%となっている。タイ、フィリピンでは「難しかった」と回答する合格者が最も多く、それぞれ 73.3%、75.0%となっている。

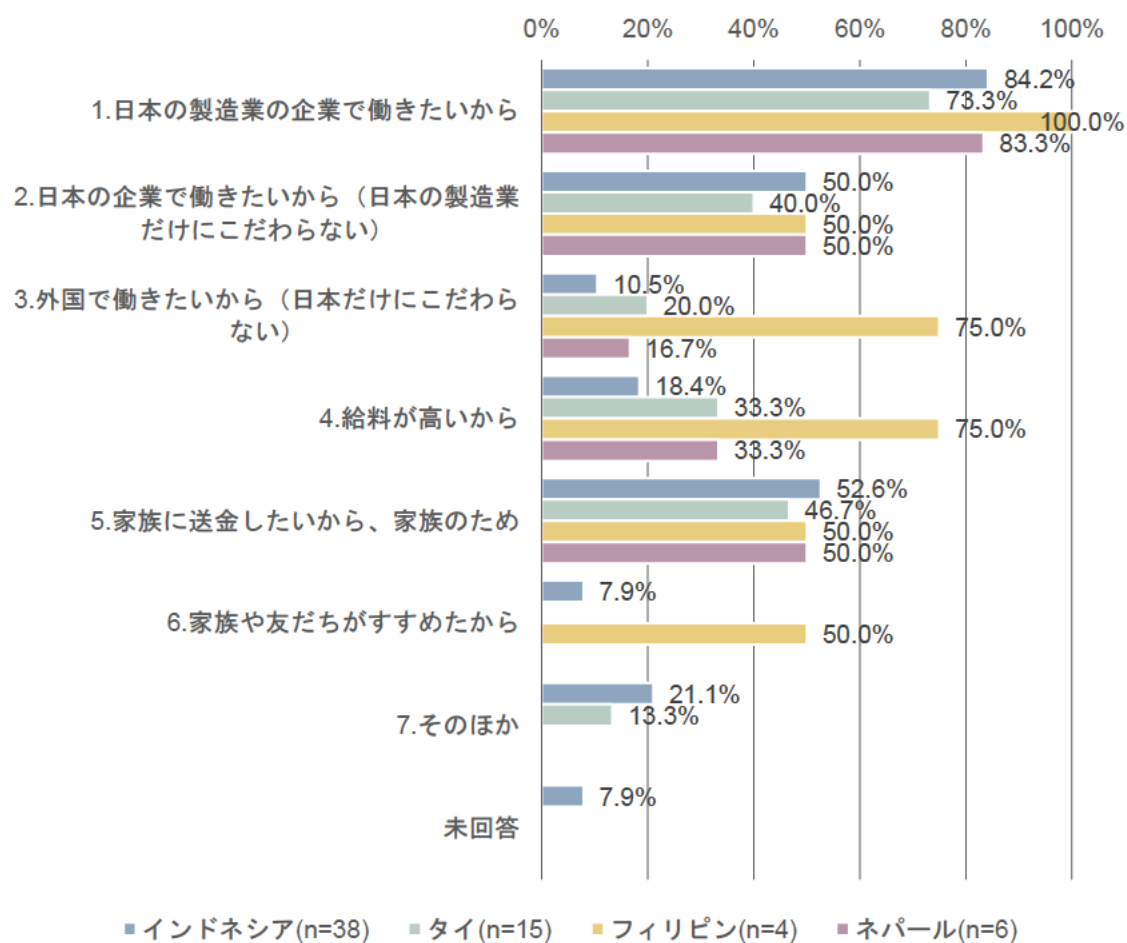
図表 V-14 試験の専門用語について（上図）、文法（下図）について



⑤ 試験を受けた理由

4 か国いずれも「日本の製造業の企業で働きたいから」と回答する合格者が最も多く、インドネシア、タイ、フィリピン、ネパールそれぞれで、84.2%、73.3%、100.0%、83.3%となっている。

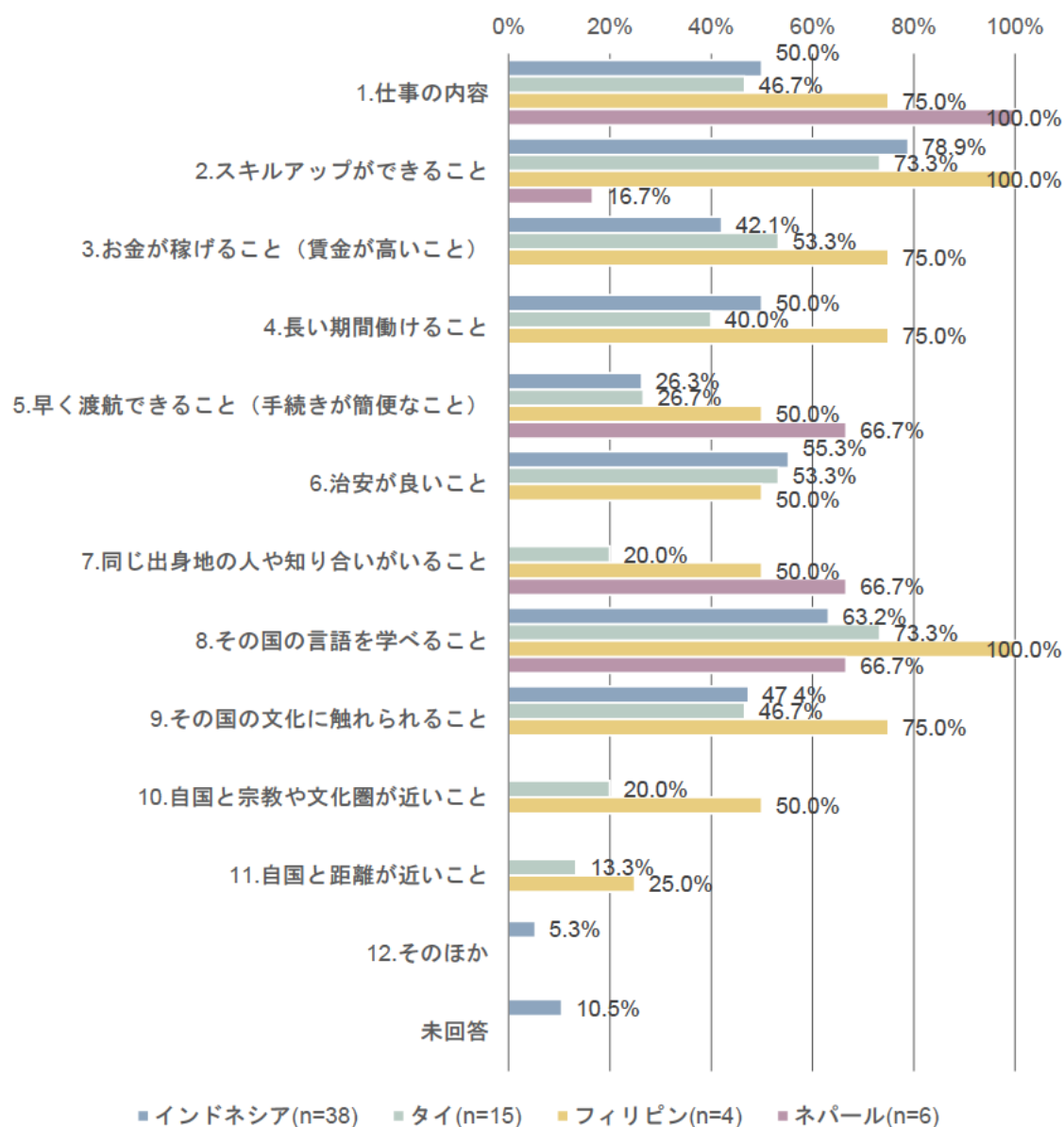
図表 V-15 試験を受けた理由



⑥ 日本で働く際に重視すること

インドネシア、タイ、フィリピンでは、「スキルアップができること」が最も多く、それぞれ78.9%、73.3%、100.0%となっている。ネパールでは、「仕事の内容」が最も多く、100.0%となっている。

図表 V-16 日本で働く際に重視すること



4. 小括と得られた示唆

試験区分別の合格者の傾向を見たところ、国内と海外4か国で多くはプリント配線板製造、電子機器組立て、電気機器組立て、プラスチック成形などの合格率が比較的高い。それに準じて、機械加工や機械検査、機械保全等の合格率が高いことが分かる。溶接区分については国内のみの実施となったが、実技試験のうち必修科目の合格率は高い一方、学科試験、実技試験（選択）の合格率が比較的低い。

アンケートによる合格者の特徴を分析したところ、国内においてはベトナム国籍で特定活動として従事している外国人材であり、同一社内で別の業務に従事することを受験理由としている傾向にあることから、技能実習等の経験を経て特定技能で受け入れている業務にも従事することを達成する外国人材が多い。海外においては、技能実習経験のある外国人材が受験することが多く、多くが製造業系のバックグラウンドを持つ。

日本語能力水準としては、国内試験合格者にとっても現在の試験は難しいと考える回答が多い一方で、現地語になっても、試験の専門用語、文法で難しさを感じる回答者が多い。今後合格者の技能水準に近づけるには、より現地語環境に適応した試験参考情報の周知・発信が必要となると考えられる。

令和2年度 中小企業支援調査
製造業における外国人材受入れ支援事業
事業報告書

令和4年3月

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社